

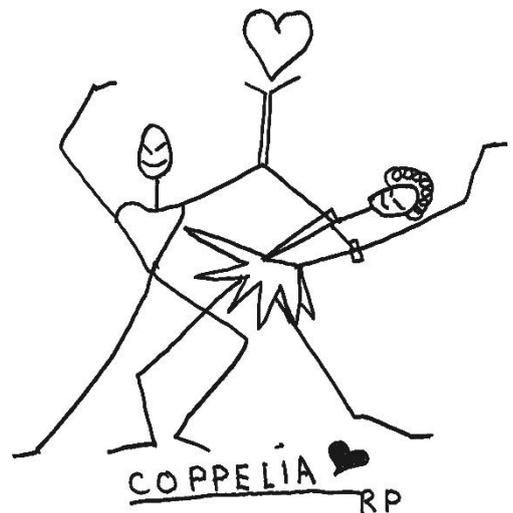


無観客のライブ配信で話題に
ユーモアと洒落た雰囲気、そして深い余韻を残す名作

『コッペリア』は、現代バレエの巨匠ローラン・プティがマルセイユ・バレエ時代の1975年に発表し、古典からストーリーを大胆に読みかえた画期的な新演出で全世界の話題となりました。プティ自身が演じたコッペリウスの名演が今でも語り継がれる、彼の代表作です。

プティ作品ならではのエスプリが全編にちりばめられ、一度見たら忘れられない印象的なラストが心に残ります。

小粋で遊び心に溢れたプティ・マジックによる極上のエンターテインメントをどうぞご堪能ください。



資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ

新国立劇場 制作部舞踊 広報担当 清水千奈美

Tel : 03-5352-5735 / Fax : 03-5352-5737 / E-mail : shimizu_c4725@nntt.jac.go.jp

NATIONAL
BALLET
OF JAPAN

作品について

🔑 小粋でおしゃれなプティ・ワールド

長閑な農村から、衛兵や街の娘たちで賑わう都会に舞台を移したプティ版『 Coppélia 』。主役のスワニルダとフランツの繰り広げるおしゃれな恋の駆け引きからプティ独特のコケティッシュな振付、洒落っ気が効いた美術・衣裳と、舞台の至るところまでプティ・ワールドをお楽しみいただけます。

🔑 ユーモアの中に隠された、普遍的な愛と孤独というテーマ

パリジャンらしいユーモアに溢れた楽しい『 Coppélia 』ですが、実は多くの示唆に富んだ作品でもあります。

原典版と異なる重要な設定のひとつが、老人形師のコッペリウスがスワニルダに恋しているという点。彼を通して、人の愛とは何かといった普遍的な問いが浮かび上がってきます。

全体を通して、スワニルダとフランツの澁澁とした若々しさと、老紳士コッペリウスの哀歎や孤独感が対照的に描かれており、ラストには何度見ても忘れられない印象的な幕切れが待ち受けています。

🔑 無観客のライブ配信で話題に！

2021年5月に上演予定だった『 Coppélia 』。新型コロナウイルス感染症の影響により東京都に緊急事態宣言が発出され、全公演中止となりました。その際、全キャストを4日間無観客公演にてライブ配信し、16.7万人を超える視聴者にご覧いただきました。Twitterのトレンドに入るなど大きな話題を呼んだ作品を、改めてお客様にお届けいたします。



2021年ライブ配信より
撮影：瀬戸秀美

ものがたり

人気者の衛兵たちと街の女の子で賑わうマルセイユの広場。スワニルダはフランスに夢中だが、フランスの方は気もそぞろ。彼は、コッペリウスの家バルコニーに座っているクールな美少女コッペリアに心惹かれているのだ。

「彼を惑わすコッペリアってどんな女の子なの？」居てもたってもたっていないスワニルダは、コッペリウスが落とした鍵を拾い、その留守宅に友人たちと忍び込む。



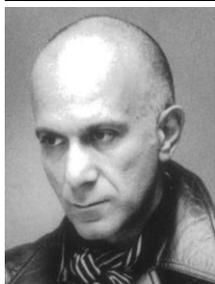
人形の腕や足などの部品が無数に置かれているコッペリウスの家。帰宅したコッペリウスは、スワニルダたちを追い出すと、コッペリアとシャンパンで乾杯。愛しそうに彼女の手を取りワルツを踊る。だが何をしてもコッペリアは無表情。それもそのはず、彼女はコッペリウスが作った自動人形だった。ダンディな紳士コッペリウスの秘密はそれだけではない。彼は、若いスワニルダに想いを寄せ、彼女そっくりにした人形で、孤独を慰めていたのだった。

そこにコッペリアに会おうとフランスが忍び込んできた。コッペリウスは、彼を眠らせ、その魂を抜き出しコッペリアに注入。彼女を人間にしようというのだ。すると本当にコッペリアが動き出したではないか！コッペリアは気ままにふるまいコッペリウスを翻弄する。実はこれにはからくりがあった。スワニルダがコッペリアの振りをしていたのだ。真相が明らかになると、フランスは自分の本当の気持ちに気が付く。幸せな若いカップルは友人たちの祝福を受けるが、愛するものを失ったコッペリウスは独り茫然と立ち尽くすのだった。



スタッフプロフィール

【振付】 ローラン・プティ Roland PETIT



パリ生まれ。オペラ座バレエ学校で学んだ後、パリ・オペラ座バレエに入団。当時芸術監督だったセルジュ・リファールらに才能を認められるが、自由な創作の場を求めて20歳の時に退団。ジャン・コクトー、パブロ・ピカソなどの芸術家、知識人と交流しながら『若者と死』（1946年）、『カルメン』（49年）などの力作を次々と発表し、一躍時代の寵児となった。50～60年代には映画やミュージック・ホール、テレビの分野に精力を傾け、パリ・オペラ座バレエに振り付けた『ノートルダム・ド・パリ』（65年）以降さらに自由で洗練された表現に結びついていく。72年にマルセイユ・バレエの芸術監督に招かれ、98年に同団を退くまで、『アルルの女』『ブルースト』（74年）『長靴をはいた猫』（85年）『マ・バヴロヴァ』（86年）など、多くの新作を発表。ダンサーとしても独自の存在感を発揮。プティが生み出すバレエの魅力はパリっ子らしい軽妙洒落さ、小粋さにあると言われ、バレエ一筋の経歴ではなくミュージカルやレビューなどを手掛けた経験が自由さや柔軟さを作り出す。01年ポリショイ劇場での『スペードの女王』の制作などに対して、ロシアの最高国家章をフランス人で初めて受章した。2011年7月10日、スイスのジュネーヴで死去。

【芸術アドバイザー／ステージング】 ルイジ・ボニーノ Luigi BONINO



イタリアのブラ生まれ。10歳の時にトリノでバレエを始める。1973年にクルベリ・バレエに入団し、プリンシパル・ダンサーとして『ロメオとジュリエット』などを踊る。75年にローラン・プティのマルセイユ・バレエに移籍。以来、『コッペリア』のコッペリウス、『若者と死』、『ノートルダム・ド・パリ』のフロロ、『こうもり』のウルリックなど、『長靴をはいた猫』の猫、『眠れる森の美女』のカラボスなど、数々のプティ振付作品を踊る。これまでにマーゴ・フォンテイン、ジジ・ジャンメール、ナタリヤ・マカロワ、カルラ・フラッチなどと共に共演。また91年にマルセイユで初演の『ダンシング・チャップリン』では彼の個性が遺憾なく発揮され好評を得た。プティ作品の指導をまかされており、ナポリのサンカルロ歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座バレエ、牧阿佐美バレエ団、ポリショイ劇場などによる公演で、プティを補佐してきた。新国立劇場へは2002年ローラン・プティの『こうもり』初演で振付指導をおこなうと同時にウルリック役でも出演。軽やかな身のこなしと絶妙の演技でプティ・バレエの真髄を体現してみせた。その後、『こうもり』再演での振付指導に続き、新国立劇場バレエ団でのプティ『コッペリア』の上演でコッペリウスを踊り、振付指導も行った。

【美術・衣裳】 エツィオ・フリジェーリオ Ezio FRIGERIO



建築を学んだ後、ミラノのピッコロ・テアトロで衣裳製作を手がけたことから舞台芸術分野にかかわるようになる。アート・ディレクターとプロデューサーも担当し、ピランデルロ『山の巨人たち』、ブレヒト『屠殺場の聖ヨハンナ』、シェイクスピア『リア王』、パリ・オデオン座で初演のコレネイユ『舞台は夢』、フィリッポ『大魔術』など重要な戯曲作品から独特の舞台を立ち上げる。オペラの美術デザインとしてはパリ・オペラ座でリリアーナ・カヴァーニが演出したケルビーニ『メディア』、モネ劇場のシュトラウス『エレクトラ』（ヌリア・エスペル演出）、ミラノ・スカラ座のヴェルディ『エルナーニ』（ルーカ・ロンコーニ演出）など、映画の美術も手がけラブロー監督の『シラノ・ド・ベルジュラック』では1990年アカデミー美術賞にノミネートされている。2022年2月2日故郷の近隣都市レッコで死去。

【照明】 ジャン・ミッシェル・デジレ Jean-Michel DÉSIÉ



マルセイユ生まれ。地元マルセイユのオペラ劇場に就職し、プティと出会う。マルセイユ・バレエのツアーに同行して世界各地を回り、プティの妻ジジ・ジャンメールのショー公演にも参加する。1996年、プティがミラノ・スカラ座のカルラ・フラッチのために振り付けた『シェリ』で照明を担当。同年のパリ・オペラ座バレエでの『ノートルダム・ド・パリ』再演、その後スカラ座、牧阿佐美バレエ団、ブエノスアイレスのコロン劇場での同作品上演にあたり照明を監修する。以後、マルセイユ国立バレエでの仕事を経てプティとの仕事を再開、『アルルの女』『ブルースト』『デューク・エリントン・バレエ』『スペードの女王』など、世界各地のバレエ団でプティ振付作品が上演される際にスタッフとして参画している。

【指揮】 マルク・ルホワ=カラタユード Marc LEROY-CALATAYUD



©Cyril Cosson

スイス・ローザンヌ生まれ。2016年から19年までボルドー国立歌劇場で副指揮者を務め、オペラやバレエ公演、交響曲コンサートなどを定期的に指揮。Akademie Musiktheater Heute (2018-2021) のコンダクティング・フェローであり、ウィーンとチューリッヒでマーク・ストリンガーとヨハネス・シュレーフリに指揮を学ぶ。ウラディーミル・ユロフスキやベルナルド・ハイティンクなどの指揮者のマスタークラスに参加。21/22シーズンのカンヌ管弦楽団のアーティスト・イン・レジデンスに任命された。ヘンデル、モーツァルトからラヴェル、ヴァイル、リームまで、幅広いオペラのレパートリーを持ち、最近では、シャンゼリゼ劇場でのドニゼッティ『愛の妙薬』、アルチュール・ラヴァンディエの『龍王の伝説』、ボルドー国立歌劇場でのロッシェニ『セビリアの理髪師』とアンリ・ラポー『マルーフ、カイロの靴屋』、アンサンブル・ノマドとの『七つの大罪』などを指揮している。バレエ指揮者としてはキリアン、ベジャール、ロビンス作品でデビューし、ボルドー国立歌劇場バレエ公演でD.ピントレー振付のプロコフィエフ『シンデレラ』、F.アシュトン『ラ・フィーユ・マル・ガルデ』などを指揮している。

配役・プロフィール

2022年 2月	23日 (木・祝) 14:00	24日 (金) 19:00	25日 (土) 13:00	25日 (土) 18:00	26日 (日) 13:00	26日 (日) 18:00
スワニルダ	小野絢子	米沢 唯	木村優里	小野絢子	池田理沙子	米沢 唯
フランツ	渡邊峻郁	井澤 駿	福岡雄大	渡邊峻郁	奥村康祐	速水涉悟
コッペリウス	山本隆之	山本隆之	中島駿野	山本隆之	中島駿野	山本隆之

【スワニルダ】



小野絢子 ONO Ayako <プリンシパル>

東京都出身。小林紀子バレエアカデミー、新国立劇場バレエ研修所を経て、2007年に新国立劇場バレエ団に入団。08年『アラジン』の主役に抜擢され、その後もほとんどの作品で主役を踊る。11年プリンシパルに昇格。13年『アラジン』、14年『パゴダの王子』英国初演ではバーミンガム・ロイヤル・バレエにゲスト主演した。11年芸術選奨文部科学大臣新人賞および舞踊批評家協会新人賞、14年服部智恵子賞、16年橘秋子賞優秀賞、19年芸術選奨文部科学大臣賞。



米沢 唯 YONEZAWA Yui <プリンシパル>

愛知県出身。塚本洋子バレエスタジオ、サンノゼバレエ団を経て、2010年に新国立劇場バレエ団に入団。11年『パゴダの王子』で初主役を務め、13年プリンシパルに昇格。初演した主な役にはW.イーグリング『眠れる森の美女』オーロラ姫、C.ウィールドン『不思議の国のアリス』新国立劇場初演でのアリス、森山開次『竜宮 りゅうぐう』プリンセス亀の姫などがある。17年芸術選奨文部科学大臣新人賞、18年舞踊批評家協会新人賞、20年芸術選奨文部科学大臣賞、橘秋子優秀賞、22年服部智恵子賞ほか受賞多数。



木村優里 KIMURA Yuri <プリンシパル>

千葉県出身。泉バレエ塾、橘バレエ学校で学ぶ。新国立劇場バレエ研修所を経て、2015年新国立劇場バレエ団にソリストとして入団。15年『くるみ割り人形』金平糖の精役で主役デビューを果たす。『ドン・キホーテ』『眠れる森の美女』『ジゼル』やF.アシュトン『シンデレラ』、K.マクミラン『ロメオとジュリエット』、R.プティ『コッペリア』、森山開次『竜宮 りゅうぐう』で主役を踊り好評を博した。22年プリンシパルに昇格。17年舞踊批評家協会新人賞、20年中川鋭之助賞を受賞。



池田理沙子 IKEDA Risako <ファースト・ソリスト>

東京都出身。バレエスタジオ DUO で学ぶ。2009年ユース・アメリカ・グランプリ女性シニアの部銅メダルほかコンクール受賞歴多数。K バレエカンパニーを経て、16年新国立劇場バレエ団にソリストとして入団し19年ファースト・ソリストに昇格。『眠れる森の美女』『くるみ割り人形』『ドン・キホーテ』やF.アシュトン『シンデレラ』、R.プティ『コッペリア』、D.ビントレー『アラジン』、森山開次『竜宮 りゅうぐう』などで主役を踊り好評を博している。

【フランス】



渡邊峻郁 WATANABE Takafumi <プリンシパル>

福島県出身。鈴木寿雄のもとでバレエを始める。2009年モナコ・プリンセス・グレース・ダンスアカデミーを首席で卒業し、仏トゥールーズのキャピトルバレエ団に入団。K.ベラルビ『美女と野獣』ほかに主演。16年新国立劇場バレエ団にソリストとして入団し、19年プリンシパル昇格。古典作品の主役やC.ウィールドン『不思議の国のアリス』新国立劇場初演でのジャック、K.マクミラン『ロメオとジュリエット』ロメオ、『マノン』レスコー、中村恩恵『Shakespeare THE SONNETS』などを踊り好評を博している。



井澤 駿 IZAWA Shun <プリンシパル>

群馬県出身。関田和代、菅居理枝子、田中洋子に師事し、2014年新国立劇場バレエ団に入団。同年F.アシュトン『シンデレラ』で主役デビューを果たし、17年プリンシパルに昇格。『ドン・キホーテ』『白鳥の湖』『眠れる森の美女』などの古典やR.プティ『こうもり』、P.ダレル『ホフマン物語』、K.マクミラン『ロメオとジュリエット』の主役、D.ビントレー『アラジン』ランプの精・ジーンなどを踊っている。18年中川鋭之助賞、20年舞踊批評家協会新人賞、22年芸術選奨文部科学大臣新人賞。



福岡雄大 FUKUOKA Yudai <プリンシパル>

大阪府出身。ケイ・バレエスタジオ、チューリッヒ・バレエ団を経て2009年新国立劇場バレエ団に入団。劇場デビューとなる『ドン・キホーテ』で主演し、以降ほとんどの作品で主役を踊る。12年よりプリンシパル。D.ビントレー『アラジン』、『パゴダの王子』英国初演ではバーミンガム・ロイヤル・バレエにゲスト主演した。17、19年ダンス公演中村恩恵『ベートーヴェン・ソナタ』でも高い評価を得る。11年中川鋭之助賞、13年舞踊批評家協会新人賞、18年芸術選奨文部科学大臣新人賞。



奥村康祐 OKUMURA Kosuke <プリンシパル>

大阪府出身。母・地主薫に師事し、09年モスクワ国際バレエコンクールで銀賞受賞。翌年文化庁芸術祭新人賞を受賞。12年新国立劇場バレエ団に入団し、13年『ドン・キホーテ』にて主演デビュー。16年よりプリンシパル。古典作品やD.ビントレー『アラジン』、R.プティ『コッペリア』、M.フォーキン『ペトルーシュカ』主演のほか、W.イーグリング『くるみ割り人形』ねずみの王様、C.ウィールドン『不思議の国のアリス』新国立劇場初演でのルイス・キャロル／白ウサギなどを初演している。10年文化庁芸術祭新人賞、14年舞踊批評家協会新人賞、16年中川鋭之助賞、22年芸術選奨文部科学大臣新人賞。



速水涉悟 HAYAMI Shogo <ファースト・ソリスト>

京都府出身。ジョン・クランコ・バレエ学校を経て、2015年ヒューストン・バレエに入団。15年ユース・アメリカ・グランプリ NY ファイナル男性シニア部門金賞、審査員特別賞を受賞。18年新国立劇場バレエ団にソリストとして入団。20年『ドン・キホーテ』で全幕主演デビューを果たし、『竜宮 りゅうぐう』『ジゼル』『くるみ割り人形』の主演のほか、D.ビントレー『アラジン』ランプの精ジーン、K.マクミラン『ロメオとジュリエット』ベンヴォーリオ、C.ウィールドン『不思議の国のアリス』ルイス・キャロル／白ウサギなどを踊る。21年ファースト・ソリストに昇格。『コッペリア』は今回が初主演となる。

【コッペリウス】



山本隆之 YAMAMOTO Ryuji <オノラブル・ダンサー>

大阪府出身。ケイ・バレエ・スタジオにて矢上香織、久留美、恵子に師事、ジャズダンス、クラシックバレエを始める。93年にニューヨークのジョフリー・バレエ学校に奨学生として留学し、ジョフリー・バレエに入団。新国立劇場へは97年に入団し、2008/2009シーズンにはプリンシパルに昇格。新国立劇場がレパートリーとするほとんど全ての作品で主演を踊り、名実ともに新国立劇場バレエ団のトップ・ダンサーとして活躍した。R.プティ『こうもり』ではヨハン、『コッペリア』ではフランツを踊っており、21年に無観客配信を行った『コッペリア』ではコッペリウスを演じた。03年中川鋭之助賞、05年服部智恵子賞、07年橘秋子賞優秀賞、08年芸術選奨文部科学大臣新人賞、13年芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。16年紫綬褒章を受章。



中島駿野 NAKAJIMA Shunya <ソリスト>

東京都出身。祖父母である中島久・卯埜賀寿江の元でバレエを始める。その後、安藤雅孝・尾寺敏晴・八木ひとみ・中島綾子にも師事。2014年新国立劇場バレエ団にファースト・アーティストとして入団。W.イーグリング『眠れる森の美女』4人の王子、狼、『くるみ割り人形』ドロッセルマイヤー、P.ライト『白鳥の湖』ロットバルト男爵、R.プティ『コッペリア』コッペリウス、C.ウィールドン『不思議の国のアリス』手品師／マッドハッター、森山開次『竜宮 りゅうぐう』時のガイド、『ドン・キホーテ』ロレンツォ、『ジゼル』ヒラリオンなど様々な役柄や作品を踊っている。22年ソリストに昇格。

公演概要

2022/2023 シーズン

新国立劇場バレエ団「 Coppélia 」

Coppélia Ballet by Roland Petit

芸術監督	吉田 都
振付	ローラン・プティ
音楽	レオ・ドリーブ
芸術アドバイザー／ステージング	ルイジ・ボニーノ
美術・衣裳	エツィオ・フリジェーリオ
照明	ジャン＝ミッシェル・デジレ
指揮	マルク・ルホワ＝カラタユード
管弦楽	東京交響楽団
出演	新国立劇場バレエ団

【公演日程】

2023年2月23日（木・祝）14：00
2023年2月24日（金）19：00
2023年2月25日（土）13：00／18：00
2023年2月26日（日）13：00／18：00

*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、託児サービス、バックステージツアーは当面休止させていただきます。

*ロビー開場は開演 60 分前、客席開場は開演 45 分前です。開演後のご入場は制限させていただきます。

【会場】新国立劇場 オペラパレス（京王新線 新宿駅より 1 駅、初台駅中央口直結）

【予定上演時間】約 2 時間（休憩含む）

【ウェブサイト】<https://www.nntt.jac.go.jp/ballet/coppelia/>

【チケット料金（税込）】

席種	S 席	A 席	B 席	C 席	D 席	Z 席*
料金（税込）	13,200 円	11,000 円	7,700 円	4,400 円	3,300 円	1,650 円

*Z席は舞台のほとんどが見えないお席です。予めご了承ください。

※Z席は、公演当日朝 10:00 から、新国立劇場 Web ボックスオフィスおよびセブン-イレブンの端末操作により全席先着販売いたします。1人1枚です。

※上記の方法での先着販売後、残席がある場合は、開演 2 時間前からボックスオフィス窓口でも販売いたします。

※電話での予約は承れません。

【前売り開始日】

アトレ会員先行販売期間：2022 年 12 月 10 日（土）10:00～13 日（火）

新国メンバーズ先行販売期間：2022 年 12 月 11 日（日）10:00～13 日（火）

一般発売日：2022 年 12 月 17 日（土）10:00～

*1 階 1 列～2 列の座席は販売いたしません。

*通常の座席配置（1 階 1 列～2 列を除く）での販売を予定しております。

*政府及び東京都の判断により、イベント収容率の制限に変更が生じた場合は、途中でチケットの販売を停止する場合がございます。

【チケットのお求め・お問い合わせ】

<ウェブでの予約・購入>

新国立劇場 Web ボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>（PC、携帯共通）

チケットぴあ <http://pia.jp/t/>（PC、携帯共通）【Pコード：511-612】

イープラス <http://eplus.jp/>（PC、携帯共通）

ローソンチケット <http://l-tike.com/>（PC、携帯共通）【Lコード：32126】

<電話での予約・購入>

新国立劇場ボックスオフィス TEL：03-5352-9999（10:00～18:00）

チケットぴあ TEL：0570-02-9999

*本公演は新型コロナウイルス感染予防、拡大防止対策をとって上演いたします。

新国立劇場における新型コロナウイルス感染拡大予防への取り組みと主催公演ご来場の皆様へのお願い

https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html